

# 令和7年度 学校関係者評価

中津市立三保小学校 (2月)

1 学校の教育目標

自問して みんなで伸びる三保っ子の育成

2 育成を目指す資質・能力

人間関係形成能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

生きて働く知識・技能の育成

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
夢や目標を持って、自ら学び続ける力の育成	①中津市標準学力調査でC層の児童の割合 ※国語20%以内 ※算数20%以内  ②単元テスト「知識・技能」80点以上の児童を80%	学校	○基礎基本的な学習内容の定着	①授業者は、単元ごとのテストのやり直しを徹底するとともに、定着度が低いと思われる問題については、類似問題に取り組みさせる。 ②担任等は、朝読書の時間を週2回以上は確保し、その時間は、静かに読書をさせる。	A	・中津市学力調査の結果をみると、学んだことがよく身についている。授業中学習に向かう姿勢もよい。 ・三保スタイルの学習方法がしっかりとできている。 ・低学年の力をつけるための工夫が必要である。
		家庭	○学習習慣・生活習慣の確立	保護者は勉強時間・就寝時刻が守れるように我が子に声かけする。	A	・家庭での学習習慣の確立のために、家庭の協力ができている。 ・各家庭に対しての意識づけをどのようにすすめていくのか。
		地域	○学校への支援活動の推進	学校の教育活動に、ゲストティーチャーとして学習支援を行う。	A	・年間を通じた教育活動を4月に決めたことで、人数や時間調整を行うことができた。年度途中から組み込んだ教育活動についても、コーディネーターと一緒に計画に入ること、地域が協力できた。

思考力・判断力・表現力の育成

自ら考え、進んで行動することができる力の育成	③「授業中、友だちと自分の考えを比べて考えることができた」と答える児童の割合を90%以上にする  ④単元テスト「思考力・表現力・判断力」80点以上の児童を65%	学校	○算数における三保スタイルの授業実践の確実な実施	①児童は算数授業のスタート時に、単元プランをもとに自らめあての確認ができるようにする。 ②授業者は算数の授業で【ペア・グループ学習】【ぶらぶらタイム】など全児童が声を出す場面を1週間に3回以上設定する。	A	・どの学級も「三保スタイル」の授業ができています。 ・授業中の話し合いで、自分の考えをよく話しています。
		家庭	○家庭内対話の充実	○今日の出来事を子どもに聞く	A	
		地域	○あいさつの推進	GT等は交流やサポートで出会う児童に先手挨拶をする。	A	・地域への啓発を行う方がよい。啓発活動についても、地域が行うべき。交流センターからのお知らせなど。

学びに向かう力、人間性等

自他を大切に、誰とでも協働できる力の育成	⑤「以前と比べて成長できた」と答える児童の割合を90%以上にする。  ⑥「みんなと力を合わせて取り組めた」と答える児童の割合を90%以上にする	学校	学習や生活の中に、自分や他人を大切に活動する活動を確認する。	①月に一度、学級活動の中で、自問ノートの内容を扱った指導を、クラスの実態に合わせた形で行う。 ②担任等は、人間関係づくりプログラムを月2回以上行う。 ③教員は生活科・総合的な学習の時間で、自らの学びを意味づけたり、学びを友だちと共有したりする「ふり返り」の場面を月1回以上位置づける。	A	・さまざまな活動をとおして、友達の良い面を見つける活動を行っている。見方を変えるきっかけになっている。
		家庭	○子どものお手本となる言葉遣いの実践	○保護者は「ありがとう」の声かけをする。	A	・家庭での取り組みを、PTAの活動テーマにし、懇談等で話題にすることで、当事者意識も持ってもらうとよい。
		地域	○児童の頑張りを認め、ほめる	○ゲストティーチャー等は、あいさつに加え、一言プラスの声かけをする。	A	・交流センターを通じて、あいさつの取り組みをもっとアピールしていくとよい。

働き方改革の推進

時間外勤務の縮減	⑦時間外勤務が月45時間以内におさまる職員の割合を85%以上にする。	学校	19:00施錠の徹底	○週に3回以上、18:45時までに学校をでる。	B	・先生たちが元気に働けるために、働き方改革をすすめてほしい。
		家庭	子ども相談等の時間内の対応		A	
		地域			A	